

地域交流・連携

都道府県	北海道、東京都、大阪府、奈良県、大分県	学校名等	全国5カ所 51校、267人
名称	高校生 ICT Conference2013 ～考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H～		
目標(狙い)	<p>これまで大人が形成してきた情報化社会とそのルールにあって、次世代の社会を支える高校生が、自ら考え、他者の意見を聴き、議論し、意見をまとめ、発表することにより、将来のインターネット社会に臨む環境整備の一助になることを目的とする。</p> <p>①教育的側面：初対面の人と話し合うという経験を通じ、「考え、まとめる、話す、聞く、見せる、伝える」などの技術習得</p> <p>②社会的側面：携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために自ら考え、実践することで、情報モラル・リテラシー意識の向上を図る。</p>		

(具体的な取組等の内容)

1. 開催概要

- ・ 5地域で2回、各テーマに沿った熟議を実施。
- ・ 5地域で選ばれた代表者1名ずつ、計5名が東京に集まりサミットを開催。
- ・ サミットで選出された代表者3名が内閣府、文部科学省、総務省にて提言を発表。

2. 参加者

- ・ (生徒) 全51校、267名(高校1～3年生)
- ・ (講演) 携帯電話事業者、SNS事業者、フィルタリング事業者等
- ・ (参観) 地方公共団体、教職員等

3. 各ワークショップの構成

3-1. 第1回 ワークショップ

開催地	日程	参加人数(参観者数)
北海道	2013年9月8日	6校19人(27人)
東京	2013年9月7日	8校39人(62人)
奈良	2013年7月21日	10校64人(58人)
大阪	2013年7月20日	13校62人(53人)
大分	2013年9月28日	12校42人(51人)

(1) テーマ：「何が知りたい?!情報のモラルとリテラシー」

(2) ワークショップ内容

- ① 挨拶
- ② 企業講演…高校生の議論のきっかけとなるような講演を企業3社がリレー形式で実施
- ③ 熟議イントロダクション…司会者より、議論の方法・概略を説明
- ④ 熟議…各班6～10名程度ファシリテーター1名、書記1名により議論をサポート(テ-

マに沿った内容であれば手法、形式等は問わない)

- ⑤ グループ発表…模造紙を使用し、熟議の成果を参加者の前で発表
- ⑥ 講評

3-2. 第2回 ワークショップ

開催地	日程	参加人数 (参観者数)
北海道	2013年10月20日	8校41人(25人)
東京	2013年10月5日	7校33人(54人)
奈良	2013年9月29日	8校35人(51人)
大阪	2013年10月5日	11校37人(39人)
大分	2013年10月26日	12校37人(45人)

(1) テーマ:「高校生だからできる『情報モラル・情報リテラシー教育』」

(2) ワークショップ内容

- ① 挨拶
- ② 講演…第2回のテーマに沿って、高校生の議論のきっかけとなるような講演を実施
- ③ 熟議…班分けを行い、議論を実施。最終発表用のパワーポイント資料を作成する。
- ④ グループ発表…パソコンで資料を投影し、各班が熟議の成果を参加者の前で発表
- ⑤ 総評
- ⑥ サミット参加者発表…各学校代表者による推薦投票方式により、代表者1名を選出

3-3. サミット

2013年11月3日(日) 代表生徒 5校5名による熟議を実施

(1) テーマ:「考えてみよう!情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H」

(2) ワークショップ内容

- ① 挨拶
- ② アイスブレイク…各地域代表者の自己紹介などを実施
- ③ 提言のための熟議…テーマに沿った熟議を行い、提言用のパワーポイントにまとめる。
- ④ 提言発表…生徒全員で参加者に向けた発表を実施
- ⑤ 講評

最終参加者発表…参加生徒による推薦投票方式により、代表者3名を選出。

3-4. 最終報告会

2013年12月18日(水)

・代表者3名と引率者、主催者にて内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」、総務省、文部科学省を訪問し、提言内容を発表。

4. 熟議の内容について

平成 25 年度は「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の 5W1H」というタイトルのもと、対象を「小中学生」「同年代」「先生・保護者」「企業に向けて」「行政に向けて」と明確化した上で、議論を行い、サミットでの発表では以下のような提言がなされた。

- 小中学生には、高校生自身の体験談を交え、具体的に伝えることでフィルタリングをする意味を伝えていきたい
- 保護者に向けては、高校生が使っているネット環境を知り、機械の操作方法を知ってほしい
- 同年代へ向けては、現場を知っている私たちが、同じ目線で話すこと、リスクをかける価値があるのかをきちんと判断する必要があることを伝えたい。

5. 成果

- ・ 各会場、班ごとの熟議録を作成。各地での取組成果としてホームページ公開。
- ・ 2014 年 3 月の文部科学省主催フォーラムに代表生徒 3 名が登壇。

6. アンケート結果

生徒自身の気づきにつながっただけでなく、参観の教育関係者・事業者の気づきが多くあったことが伺える結果となった。

(生徒)

- ・ スマホは使ったことがなかったが、授業でやるより危険がいっぱいあってびっくりしました。
- ・ 学校とかだと、ここまで真剣に討論することがないので同じように考えている人が沢山いるのを知れてうれしかった。
- ・ 自分と同年代の人が色々なことを考えているのが分かってとても刺激があった。

(参観)

- ・ 高校生の意識の高さ ICT 教育について、先生方も含め、更に勉強する必要がある
- ・ 高校生が想像以上に大人に期待していること。授業や、今の大人の教育に幻滅してはおらず、直してほしいこと。取り組んでほしいと思っていることが多くあることが伝わってきた。
- ・ 高校生の実際の使い方の細かいところを知ることができました。また、思った以上に意識が高く、優秀、頼もしく感じました。

写真・図表等

①講演（第1回：大分）



②熟議（第1回：大分）



③グループ発表（第1回：大分）



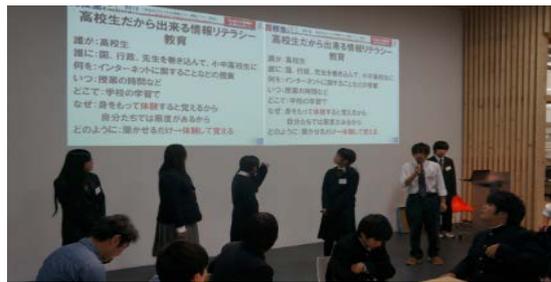
④講演（第2回：大阪）



⑤熟議（第2回：北海道）



⑥グループ発表（第2回：北海道）



⑦熟議（サミット）



⑧発表（サミット）



⑨最終報告会（総務省）



⑩最終報告会（内閣府）



都道府県	京都府	学校名等	京都府下の中学校高等学校より (京都府立宮津高校、京都府立園部高校、京都府立鳥羽高校、京都府立乙訓高校、私立洛南高校、私立立命館宇治高校、舞鶴市立城南中学、京都府立園部高校附属中学、京都市立西院中学、八幡市立男山東中学、私立洛南高校附属中学、私立立命館宇治中学)
名称	スマホ時代の子どもを守る「ALL京都シンポジウム」		
目標(狙い)	スマートフォンやインターネットに接続可能なゲーム機器等の普及に伴い、インターネット利用に起因する子どもたちの被害が深刻な問題となっているため、青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境作りをオール京都体制で推進するためシンポジウムを開催し、子ども、大人それぞれから、スマホを始めとするインターネットの安全利用に向けた行動アピールの発表を行う。		
<p>1 取組成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高生が主体となって、アンケート調査含め、企画、発表を行った ・中高生が自ら考えた行動アピール「京都 青少年スマホ宣言」を発表 ・中高生による行動アピールの発表を受けて、大人たち（京都府知事、京都市長、京都府警察本部長）が行動アピールを発表 <p>2 総務省施策等との関連性</p> <p>総務省では「スマートフォン安心安全強化戦略」において、色々な場でソーシャルメディアガイドラインの活用について働きかけを行っているところである。</p> <p>今回は、京都府警察本部、京都府、京都市が子どもたちに働きかけ、子どもが自ら考えたガイドラインたる目標（京都青少年スマホ宣言）を具体化するため活動したものの。</p> <p>3 実施概要</p> <p>●開催日時及び開催場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年7月29日（火）午後1時00分（受付開始） 午後1時30分～4時00分 ・京都リサーチパーク1号館4階（メイン会場）・京都府舞鶴総合庁舎（北部会場） <p>※ シンポジウムは、メイン会場、北部会場、アメリカ（留学中の日本人大学生）とをスカイプで同時中継</p> <p>●開催テーマ</p> <p>スマホ時代の子どもを守る「ALL京都シンポジウム」</p> <p>●開催概要</p> <p>① 基調講演 インターネット上の子どもたちをとりまく児童ポルノ等の危険性 ～よく考えてみて、その相手は大丈夫？～ 大久保貴世 氏（一財）インターネット協会</p>			

- ② 京都府の中高生のスマホ利用の現状と課題（中・高校生によるプレゼンテーション）
H26. 7に実施したスマホアンケートに基づき、生徒が京都府下の中高生の携帯電話等の所持率やガラケーとスマホの利用実態の比較などが発表された。
- ③ パネルディスカッション
コーディネーター 兵庫県立大学 竹内 和雄 准教授（SM連絡会（近畿）座長）
中高生、PTA、教師、警察、SNS事業者による意見交換。
- ④ 中高生による行動アピール「京都 青少年スマホ宣言」の発表
②、③を踏まえ、総括として中高生による「京都 青少年スマホ宣言」を発表。
- ⑤ 大人による行動アピールの発表
④をうけて京都府知事、京都市長、京都府警察本部長による「スマホ時代の子どもを守るALL京都」行動アピールの発表が行われた。

4 期待される効果

- ・ ガイドラインたる目標「京都 青少年スマホ宣言」の策定を通じて、当事者意識の醸成、成果物の遵守意識の高まり
- ・ 子どもたち同士でのリテラシー向上に向けた取組の発展
- ・ 地域の子どもや若者を育成する団体間のネットワーク構築促進
- ・ 家庭・学校・地域・行政の情報の共有化
- ・ 地域の子ども・若者と大人の意見の交換の機会創設
- ・ 団体間交流と青少年参画による地域の連携促進

5 参加者数等

教職員、保護者、青少年健全育成ボランティア、青少年及び一般参加者 約210名
（メイン会場 約170名、北部会場 約40名）

6 その他

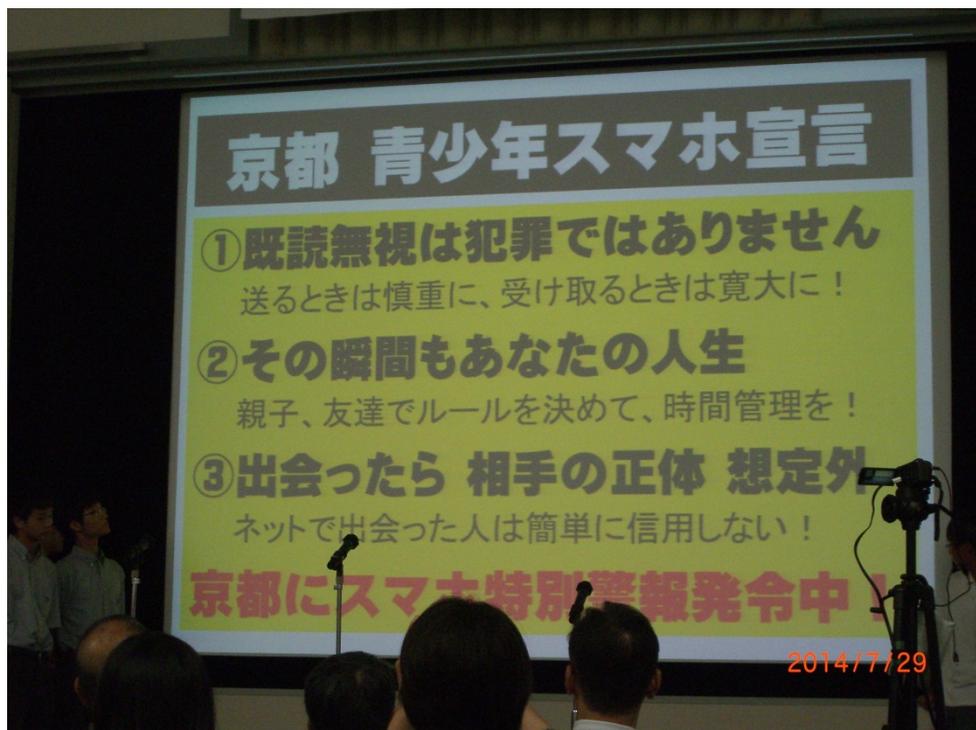
●開催主体

主催 京都府、京都市、京都府警察本部

共催 京都府公安委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会

後援 京都府PTA協議会、京都府立高等学校PTA連合会、京都市PTA連絡協議会、
京都府少年補導連絡協議会、京都市少年補導委員会、公益社団法人京都府
青少年育成協会、公益社団法人京都府少年補導協会、人づくり21世紀委員会、京
都リサーチパーク株式会社 ほか

●開催状況



大人による行動アピールを発表する京都府知事、京都市長、京都府警察本部長

都道府県	島根県	学校名等	島根県隠岐の島町 五箇中学校、都万中学校、西郷中学校、西郷南中学校、 ※大阪府高石市 学校法人羽衣学園との交流
名称	『平成 25 年度 青少年を取り巻く有害環境対策の推進 青少年安心ネット・ワークショップ事業』		
目標(狙い)	<p>子供たちの情報リテラシー・情報モラルの醸成には、保護者や教職員・指導員等の大人に向けて行うプッシュ型の講演会もよいが、一過性で終わらせないために、子供たちに課題を与えてグループで考えさせるワークショップ型の学びが大変有効である。</p> <p>そこで、平成 24 年度にトライアル・サンプルとして隠岐・島前地域三町村でワークショップを行ったが、その結果見えてきた課題（ネットショッピングの利用、決済）は、隠岐・島前地域特有のものなのか、他の離島でも共通の課題なのか、島後地域でも同様のワークショップを実施することにより実証データの一つとなりうるものと思われた。</p> <p>平成 25 年度は、新たに大阪府内の高校生とインターネットを活用したワークショップを実施し、自分たちの今後の島内、島外生活をイメージしながら、インターネットの利活用についてグループディスカッションを通して、都市部と離島とのインターネットに対する考え方の共通点・相違点、その中にある問題点に気づき、解決策を自ら考えて行動出来るようになることを目指したもの（文部科学省受託事業、受託者：(有)Will さんいん（松江市））。</p>		
<p>(具体的な取組等の内容)</p> <p>【開催概要】</p> <p>① リアルワークショップの実施</p> <p>日 時：平成 25 年 7 月 16 日(火)～18 日(木)</p> <p>場 所：島根県隠岐の島町 西郷南、五箇、都万及び西郷の各中学校</p> <p>内 容：事前アンケート結果を基に、インターネットの光と影の部分について、また、影の部分で出たインターネットのトラブルへの対応方法について、KJ 法を用いてブレインストーミングを行った。各々のブレインストーミングの結果を付箋に書き出し、模造紙に貼って行き、順次意見をまとめ、インターネット利用のルール「3 か条」を各グループで決定し発表を行った。</p> <p>(①時間を決める、②セキュリティをかける、③個人情報を公開しない)</p> <p>※ルールの中で多かったもの上位 3 位</p> <p>(4 中学校から延べ 233 名の生徒が参加)。</p> <p><ワークショップの流れ></p> <p>① グループ名を決定</p>			

- ② ピンクの付箋：ネットのいい点・活用している点を書き出す
 - ③ 青の付箋：ネットの危険（リスク）な点を書き出す
 - ④ 黄色の付箋：危険（リスク）に対する対応策を書き出す
 - ⑤ ネット利用の3か条を模造紙にまとめる
- ※進行：各グループに1名のファシリテーター（進行役）を配置。

② ネットワークショップの実施

日 時：平成25年8月22日(木) 14時00分～17時15分

場 所：島根県隠岐の島町 隠岐島文化会館と大阪羽衣学園 ※Skypeで繋ぎ実施

内 容：インターネットを活用したワークショップを実施し、ネットの利用状況や問題点について、ネット上で、お互い対話を通じて考えた。

インターネットの利用は、「買い物」、「SNS」などが多く、注意点としては、

- ①個人情報を公開しない、②困ったときは大人に相談するなどの意見があり、中学生・高校生ともに利用方法に大きな違いはなく、インターネットの利用には都会も田舎等も関係ないという気づきが得られ、隠岐の中学生にとっては、普段なかなか交流することのできない大阪の高校生との意見交換がとても良い刺激となった（上記4中学校生徒会役員13名と羽衣学園高校生10名参加）。

以上のワークショップでは、いずれもファシリテーター（促進者）としてSNS事業者等を配置し助言等のサポートをしたことが議論の活性化につながった。

③ シンポジウムの開催

日 時：平成26年1月19日(日) 14時00分～16時30分

場 所：島根県隠岐の島町 隠岐島文化会館 大ホール

内 容：・基調講演

◇講師：越谷市教育センター所長 大西久雄 氏

◇演題：「危ないから使うな！」から“上手に使う”へ

- ・生徒によるワークショップ成果発表（50分、各校10分ずつ）

上記4中学校によるルールの発表

羽衣学園高校生からの提言（コミュニケーションアプリの既読、スルーをテーマにした寸劇等）

※コーディネーター：学校法人 羽衣学園 教諭 米田謙三 氏

- ・ソーシャルゲーム運営会社によるプチ講座（20分）

◇株式会社ディー・エヌ・エー マーケティング本部

広報部長 金子 哲宏 氏

- ◇「スマートフォンを上手に活用するために、インターネットについて知ってほしいこと」

【取組の成果】

新たな試みとして、隠岐と大阪をネット（Skype）で繋いでワークショップを実施した。インターネットの利用方法については、隠岐の中学生・大阪の高校生共に利用方法に大きな違いはなく、インターネットの利用に関しては都市部も地方も違いがないということが再認識できた。

また、隠岐の中学生にとっては、普段直接交流することのできない大阪の高校生との意見交換がとても良い刺激となり、生活の違い・文化の違い等、価値観の違いについて気づきが得られた。羽衣学園高校生の寸劇では、コミュニケーションアプリの問題点を会場の中学生や大人に質問を投げかけるなど、参加者へも考えさせる工夫をし、会場はかなりの盛り上がりを見せた。

なお、シンポジウムは、隠岐の島町PTA連合会研修会と連携して実施したため、多数の保護者の参加があり、意識啓発にもつながった。

写真・図表等



ネットワークワークショップの様相



シンポジウム会場風景

文部科学省受託事業
 『平成 25 年度 青少年を取り巻く有害環境対策の推進 青少年安心ネット・ワークショップ事業』
 隠岐の島町シンポジウム

インターネットの使い方への提言

大阪私立羽衣学園高等学校

便利だけどデメリットは沢山！

＜課題＞ ネット熟識から

- ・スマホに対する知識不足
- ・ネット依存(動画やSNS)
- ・情報を簡単にアップ
- ・ネットショッピングやゲーム(課金)
- ・ネットの情報に頼りすぎる
- ・人と直接話さなくなる



ネット熟識から考えた提言

中学生に向けて 「ネットは うまく 使おう！」

モラル…特に投稿 対人関係(SNSなど)
 人への思いやり/言葉遣いなどを意識

家でのルール…ケータイ置く場所や時間、料金
 ほとんどが保護者の支払いであることを認識

フィルタリング…する意味をより具体的に伝える
 トラブル体験談などを聞く機会(先輩姉兄など)
 クラス会…中学生同士で考える機会

学校や家庭や企業と連携しよう！

テーマ例	方法
ネット依存	友達同士で
インターネットの常識	ルール決める
情報の正確性	

かしこく ネットやスマホと 付き合う方法を
 自分たちで考えてみよう！

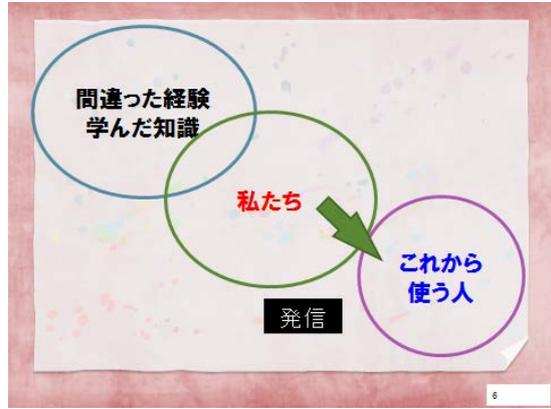
でも、結局は自分自身！

ネットやスマホについてきちんと考える
 →使い方・課金・ネット上での発言のしかたなど

全ての責任は自分！

使い方を再確認！

DOするまえにTHINKしよう！



これからの未来のために！

私たちが中心に……



「ネットとは うまく つきあおう！」

〔出典：羽衣学園プレゼンテーション資料〕

都道府県	兵庫県	学校名等	猪名川町青少年健全育成推進会議
名称	猪名川町青少年フォーラム（INAGAWA スマホサミット）		
目標（狙い）	<p>青少年のネット利用環境についての諸問題を総務省近畿総合通信局と連携し、より多くの住民に周知させる。また、スマホやネットを実際に利用する小中高生の保護者や地域の様々な団体と共に、これらの問題について「青少年の健全な育成環境を守る」ことを目的に、青少年フォーラムを通じて地域全体として考える機会を持ち、安全で安心な青少年のネット利用環境の創出を地域全体で考え機会とする。</p>		
<p>1 取組成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生が主体となって、事前調査含め、企画、立案、運営を行ったフォーラムを開催 ・ 子供達が主体となり協働したスマートフォン利用ガイドラインの策定 <p>2 総務省施策等との関連性</p> <p>総務省では「スマートフォン安心安全強化戦略」において、色々な場でソーシャルメディアガイドラインの活用について働きかけを行っているところであるが、今回は、この取組をさらに具体化し、子供が自発的にガイドラインの企画立案と作成を行うもの。そのサポートを兵庫県や猪名川町、地元警察、総務省が務めている。</p> <p>3 実施概要</p> <p>●開催日時及び開催場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年1月18日（土）午後0時30分（受付開始） 午後1時00分（開式）～4時00分（閉会） ・ 兵庫県猪名川町文化体育館 大ホール <p>●開催テーマ</p> <p>「やめられない？止まらない！コミュニケーションアプリやネット」～みんなで学ぼう！ ネットの光と闇～</p> <p>●開催概要</p> <p>⑤ 青少年サミット（中・高校生によるグループワークとプレゼンテーション）</p> <p>中学生と高校生自身がグループワークとプレゼンテーションを行い、その内容を提言としてとりまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H25. 12に実施したスマホアンケートに基づき、生徒が猪名川町の中高生の携帯電話等の所持率やガラケーとスマホの利用実態の比較などが発表された。 ・ 中高生代表（約20名）が見知らぬ人と容易につながったり、個人のプライバシーや情報が漏れたりするインターネット、スマートフォンの危険性への対策について意見を出し合った。 <p>⑥ 特別講演 講師 兵庫県立大学 竹内和雄 准教授（スマホ連絡会（近畿）座長）</p> <p>⑦ 中高生による「INAGAWA スマホ宣言」</p>			

上記①の提言に基づき、竹内准教授による「コミュニケーションアプリ」やスマホについての特別講演等を踏まえ、総括として子供たちによる「INAGAWA スマホ宣言」を発表した。

私たち、猪名川の中高生は、

- ・自分たち自身でルールを作ります。夜〇時まで 個人情報を書かない 心を広く
- ・リアルなコミュニケーションを大切にします。
- ・書いていいか、ダウンロードしていいか、立ち止まって考えます

この宣言は、各学校や公共施設等へ掲示される予定。

4 期待される効果

- ・ガイドラインの策定を通じて、当事者意識の醸成、成果物の遵守意識の高まり
- ・子供達同士でのリテラシー向上に向けた取組発展
- ・地域の子どもや若者を育成する団体間のネットワーク構築促進
- ・家庭・学校・地域・行政の情報の共有化
- ・地域の子ども・若者と大人の意見の交換の機会創設
- ・団体間交流と青少年参画による地域の連携促進

5 参加者数等

猪名川町内の全中学・高等学校（猪名川高校、猪名川中学、中谷中学、六瀬中学）

1, 358名（高校生711名、中学生647名）が参加。

6 その他

●開催主体

主催 猪名川町青少年健全育成推進会議

後援 総務省近畿総合通信局 兵庫県阪神北青少年本部 兵庫県教育委員会阪神教育事務所 猪名川町 猪名川町教育委員会 猪名川町青少年問題協議会 猪名川町地域安全推進協議会 株式会社ディー・エヌ・エー 一般社団法人 川西青年会議所

写真・図表等

●開催状況

△中高生によるプレゼンテーション

